

史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会（第24期・第4回）

議事要旨

日時 令和元年12月25日（水） 10時00分～12時00分

会場 日本学術会議 5-C (2)会議室

出席者 久留島典子（委員長）、栗田禎子（副委員長）、平野千果子（幹事）、大日方純夫、長志珠絵、木村茂光、君島和彦、久保亨、近藤孝弘、坂井俊樹、佐野正博、高橋裕子、中村元哉、星乃治彦、三谷博、桃木至朗、若尾政希、鈴木茂（幹事）（18名）

議題

1. 前回議事要旨の確認

平成30年9月3日（日）開催の第3回分科会の議事要旨を確認した。

2. 24期審議のまとめ方について

久留島委員長から、今期の審議の取りまとめ方を検討するにあたり、討議資料「教科書をめぐる制度」に関するこれまでの審議内容と論点」に基づいて、第23期第5回（平成28年11月25日）以降4回の分科会の審議内容の説明があった。「教科書をめぐる制度」は第23期から引き継いだテーマであるので、今期の分科会と合わせて審議を取りまとめることが確認された。分科会としての審議とりまとめの方法は「提言」「報告」「記録」の3つがあるが、学術会議の規定等でそれぞれの性格を確認した上、審議の結果、今回は「提言」「報告」として取りまとめることは日程的に難しいので、次期「提言」へのステップとなるような「記録」としてまとめることとなった。久留島委員長、坂井、君島、近藤各委員からなるワーキンググループで3月末を目処に原案を作成し、メール審議を経て、5月以降、分科会で最終決定する日程案を承認した。その際、合わせて情報共有のため、当初計画していた多様な視点からの教科書関係者の報告を得ることを引き続き追求することも確認された。

3. その他

来年3月までに開催される公開シンポジウム2件のアナウンスがあった。

国際歴史学会議（IUHPST）と学術会議の関係についての問題提起があった。